

ペリカン日記

上

弓場律子



ペリカン日記

上

弓場律子





昭和36年頃？ 綾子，パパ



昭和46年 律子，パパ



昭和62年 康史のおみやまいり



昭和62年 ママ，康史，里沙，綾子



平成18年 八木さん，ママ



平成16年 ママ，里沙



平成10年 ママ，康史，里沙，綾子



平成元年 ママ，里沙，綾子(後列)，パパ

はしがき

◆日記を始めるまでの経過

パパの認知症は約6～7年の年季がある。約としかわからないのは、私がほとんど家に帰っていなかったからだ。私は当初、京都市、その後、草津市で1人住まいをしていた。高槻市の実家には1時間少々で帰ることが出来たわけだが、便りのないのは元氣な証拠と年に数えるほど、それも日帰りで顔を出す程度だった。両親のことはもっぱら実家の近く（三島郡島本町）に住んでいる姉さんに任せていた。

初めてパパの変化に気付いたのはいつだったのか？言葉数がめっきり減り、新聞や本を読まなくなり、ぼうつとしていることが増えたなあと感じたのが、私が思い出せる認知症の初期症状だった。

それから道に迷うようになり、家に帰って来られなくなり、警察のお世話になったり、喫煙量が急激に増えたり、隠れてお酒を飲み出したり、時間の感覚がなくなり一人でいる時など昼間から雨戸を閉め布団を敷いて寝ていたり、というような症状が出るまでにどのぐらいの期間があったのか、それもはっきり思い出せない。

最初に相談に行った病院の先生が、「まあ、年ですし」と言う一言で真剣に取り合ってくれなかったこともあり、それ以上どうして良いものかわからなかった。

姉さんから電話でパパのボケ症状を聞かされ、気になっていた頃、私に通っていた整骨院の先生にたまたま相談したところ「介護認定を受けては？」と、介護保険制度を教えてもらった。実はこの先生、京都市北区の介護認定委員をされている方だったのだ。ほう！そういうものがあったのかと早速姉さんに電話をする。最初に相談した医者がハズレだったこと、マトモな医者に診てもらい介護認定を受け、介護サービスを受けた方がパパにもママにも良いのではないかということを話した。私としては

グッドアイデア!と意気揚々と話したのだが、姉さんに「そんな話だがママにするの!私ようせんし、あんたがしたら」と突き放された。

そうであった。ママはパパが認知症であることを認めていなかったのだ。親戚にもママの周りにも認知症の人はおらず、そんなはずが無いと。ママはイライラし、それを見ている姉さんもイライラしている時に私がノ―天氣に電話を入れたようだった。

困ったなあとまたそのままで時間が過ぎたのだが、結局姉さんがパパをマトモな病院に連れて行き、CTを撮ってもらい多発性脳梗塞による認知症と診断された。その先生にケアマネ(ケアマネの略)も紹介してもらい、介護認定を受けると介護度1だった。それが2003年11月のこと。

それからパパは近所の『上等デイスービス』に週2日だったかな?通うようになる。デイスービスに行かない日はママがい無い隙を見つけ、私と姉さんの携帯や家の電話に「あー、私弓場と言いますが、暇で。悪いけど迎えに来てもらえませんか?お願いします」という留守電が1日に何度も入る。たまたま家におり、電話をとった姉さんの子ども康史がパパの様子を見に行ってくれたこともあった。

ママのパパに対するイライラは、だんだん激しさを増していきつつ、ママ自身も心房細動という心臓疾患を持ち、頭痛や不眠を訴えるようになった。また、パパの認知症が進むにつれてママは新興宗教にのめり込む(それまでは似非信者だったように思えるのだが)。

2004年6月。ママが軽い脳梗塞を起こし入院。姉さんが1ヶ月半ほどの間介護休暇を取り、実家に住んでパパの面倒をみることになる。その頃のパパの様子はというと、(ママがパパのタバコの管理をするようになっていたことから自由に吸えなくなったこともあり)散歩をする時には拾いタバコをするようになっていた。シケモクもするのでズボンのポケットはタバコだらけ。所々こげ跡もあったらしい。食事は急いでガツガツ食べるので、一緒に食べている姉さんは食欲が無くなり痩せたとか。なぜかトイレでオシッコをしなくなり、庭で立ちションをするようになる。

ママの退院後は、私も少しは家に顔を出すようになる。ママが用事(宗教関係)で家を1日空ける時は私に電話が入り、会社を休んでパパを見てもらえないかと頼まれるようになる。そういう時のお願いは私に、常々の協力は姉さんにと、使い分けてい

るようだった。パパは道の中央を歩くので車に対する注意が必要になり、また外が暗くなつてからの散歩は嫌がるようになる。見えにくくなつて来ているようなのだが、水たまりは避けて歩くし、拾いタバコも確実にするし、タバコを拾う前にはまだ吸えるものかどうかの判断も瞬時に出来るのがとても不思議だった。

2005年4月、初めてパパはショートステイを利用、ママは広島時代の同窓会で大分の湯布院温泉へ。同窓会の解散時、広島でママは脳梗塞を起こす。大丈夫と言う本人だが明らかに様子がおかしいので大阪と東京から参加していた友人が高槻まで付き添ってくれた。ママはそのまま『しもだ上田迎病院』に入院となる。パパはショートステイ先の『話し合い』（しもだ上田迎病院系列）からそのまま『話し合い老健』（介護老人保健施設の略）に入所となる。

ママはその3週間後、ゴールデンウィーク中だったのだが、入院中に再度心房細動による脳梗塞を2連発。これで重度失語症＋徘徊＋情緒不安定＋不眠となる。2連発の直後、病院のナースステーションから電話が入る。「家族の方を呼ばれます。ICU内で落着かれず目が離せないのて来て頂けないでしょうか」とのこと。行ってみるとママはスプーンを携帯電話と思つているのか手に持ち電話をしているようだった。私を見つけたママは「もう！あんた☆∞☺※・・・！」とよくわからないが家族に何度も電話していたようで、えらく怒られた。怒りが解けると今度は部屋の一角を指さし手を合わせ始めた。それが終ると疲れたのかベッドに入り眠った。私は何が起きているのかサッパリわからず嘔然となる。その後、安定剤を処方されるが効かず、効かないのでどんどん薬の量が増え、先の症状＋フラフラ状態に。それでも歩こうとするママ。車椅子に安全ベルトというものので拘束されてもヘビのように抜け出すわ、車椅子に拘束されたまま立ち上がるわと、目が離せない状態になる。病院からの依頼もあり、24時間態勢で家政婦（12時間交代制で1日2人、約3万円／日）に付添ってもらうことにする。

私「びつくりやなあ。1ヶ月で90万円やで、1年だと1000万超えるで。パパとママは一体いくら持つてんの？」

姉さん「知らん！」

その家政婦さんもフラフラになるほど、ママは目が離せない状態が続く（特に夜間）。問題はまだある。パパとママのお金が、全く使えないことだ。カードの暗証番号不明。銀行の届出印がどれなのか、どこにあるのかも不明。そもそも、取引金融機関の把握も不確か。

去年ママが入院した時、「ママ、姉さんには何かあった時のために家の財産は何がどうなってるのか、その辺のことを言っていてや」とお願いはしていたのだが、子供であろうと財産明細を教えることに抵抗を感じていたママは一切教えてくれなかった。姉さんと「結構持つてるから言わないのか、意外と持っていないから言わないのか、どっちかやなあ。もしかしてママ、宗教にお金つぎ込んでたりして」などと話していたものだ。

私の知合いの弁護士に成年後見人の申請手続を依頼。姉さんと2人、泥棒状態で家中を家宅調査し、全く判っていないパパとママの財産一覧表を作らなければならなくなった。パパとママの所にも出来るだけ顔を出しつつの作業となり熱が出そう、吐き気、の日は続いた。その後、成年後見人の手続が終わり両親のお金が動かせるようになるまでは、姉さんがほとんどのお金を立て替えてくれたので何とかなった。

ママが入院3ヶ月目に入った頃より病院から退院要請。しかし受入れ施設なし。唯一可能性がある施設は精神病棟の中に認知症病棟がある病院だった。見学に行くが、入院費用もさることながら患者は寝たきりか、安定剤十車椅子にベルト固定されドロン+オムツ状態。入院イコール死ぬまでこの病院でのドロン生活を意味すると感じた。適切な介護をすれば回復するような気がするだけに、何でそういう施設がないのか腹立たしかった。

パパのケアマネの小野さん（退院後はママのケアマネもお願いした）からも「弓場さん、家に帰られたら落着かれるような気がするんですけど」と言われるが、「気がする」に賭けて私か姉さんが仕事を辞めてママの面倒を家でみる勇氣も持てず。それにその頃のママの状態は、介護者が3人いたら家でみれるかな？という状態で、1人では3日も持たずにこちらがダウンしそうな状態だった。ウーン困ったと頭をかかえていた時、私の勤めていた職場の経営状態が悪化し、人員整理で私も肩をたたかれた。退院を迫る病院との電話で突然「私が母を自宅でみます！ついては準備もあるのでもう少し時間を下さい!!」と宣言をしてみよう。病院側も驚くが、「ご自宅で診られるのであればこちら側も協力させて頂きます」と退院期日を伸ばしてくれることになった。電話を切って私が一番驚いた。我が口から出た言葉に暫し呆然（マジ？可能？無理やろ！死ぬで！）となるがダメでもともと、アカンと体で納得してから白旗を揚げ、病院にお願いしても遅くはないと開き直る。

後見人手続に必要な書類もやっと揃い、弁護士との打合せで、折田さん（弁護士）「後見人は弓場ちゃん（私）？お姉さん？

どっちにするの？」私「私はこれから無職無収入になるんで、姉の方が良くないですかねえ？」折田さん「まあ弓場ちゃんはずいなあ。何するか分からんし、お姉さんの方が安心だね」私「でしよう」

ということで、姉がパパとママの後見人に決定。（姉さんはかなり抵抗したが）申請するまでに約1ヶ月かかった。申請しても裁判所の許可が下りるまで約4ヶ月。実際お金を動かせるようになるのは、それから金融機関をまわり、手続が終ってからとなる。

ママを自宅に戻す前に、家の大大大掃除。2トントラック6台分のゴミと改装（手すり取付け、段差解消、居間の畳替え、ガラスを割る危険があるのでママの間のガラス建具を板戸に、ママの間のアルミサッシのガラスを網入りに、ママの間と私の間がつながるよう一部壁撤去。車椅子の邪魔になるので庭の植木一部撤去。その一部の許可される部分については市の住宅改修援助金申請。家に連れて帰る宣言をしてからは、病院側も協力的になる。安定剤を全て中止してもらうと、退院10日前からママの状態はみるみる安定し、落着きだした。

7月26日ママ退院。車椅子で帰宅したママだが、1週間後には歩いていた。あのドロドロ状態のママは何だったんだ！と病院側への不信感が募る。退院後のママはケアマネの小野さんが紹介してくれた『星のクリニック重度認知症デイケア』に通い始める。その他、訪看（訪問看護）と『しもだ上田辺病院』での言語聴覚士（ST）による失語症のリハビリを受けながらの在宅生活を送るようになる。

一方パパの方は8月、入所していた『話し合い老健施設』より、退所依頼がある。老健入所は、在宅復帰のためのリハビリ施設と位置づけられており3ヶ月が基本なのだ。その老健施設入居中にパパの足は弱り、歩く速度が牛歩作戦なみになり、表情も乏しくなる。私と姉さんはグループホーム（GH）の方が利用料は高いが、きめ細やかな介護が受けられると判断し、当時高槻で欠員があった3施設のGHを見学し、9月4日、パパは『コスモス荘GH』に入所となる。そこでパパが落ちていくくらいいいなあ、と思ったのが甘かった。自然排便が全く出来なくなり、受け答え時や更衣時に大声を出すようになった。歩く速度はだいぶ戻ったのだが。

11月4日、『コスモス荘GH』より退所依頼。便のコントロールが出来ず、ラキソベロンという腹痛を伴うキツイ下剤を飲ん

で排便させるのだが、その排便時がパパの場合、夜間になることが多く排便するとパパは気持が悪いので便を触り、その手でパジャマや布団を触るので弄便ろうべんと言われる。スタッフの負担が大きすぎると言うのが主な退所理由だった。何でそれが弄便やねん！便で遊んでるんとちゃうやん！と憤る私。ママの状態も劇的に良くなり介護も楽になってきたので、この際パパも家に帰って来てもらって3人一緒に仲良く暮らそうかと計画する私。パパとママの了解もい・ち・お・う・取・り、1月末にはパパ帰宅予定で計画を立て準備を始めたのが、11月中頃。ここでもう1度家の大掃除をする。

「2人は無理やろ、あんた何考えてんの」と難色を示す姉と私との関係は少々悪化。
おけいさん（私の友人）の勧めもあり日記をつけることにした。

昭和63年 康史、パパ

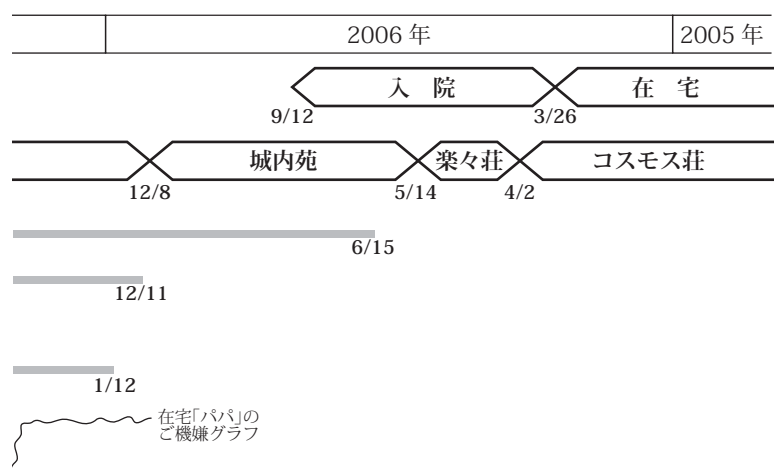


ペリカン日記（上巻）——パパとママの介護日記 目次

第一章

第二章

第三章



2月12日	律子インフルエンザ	327
4月27日	パパ虫垂炎で入院	113
1月12日	ママ圧迫骨折	37
1月5日	高槻市内の特養見学開始	31
12月14日	ママのパニック事件	10
		i
		27
		289

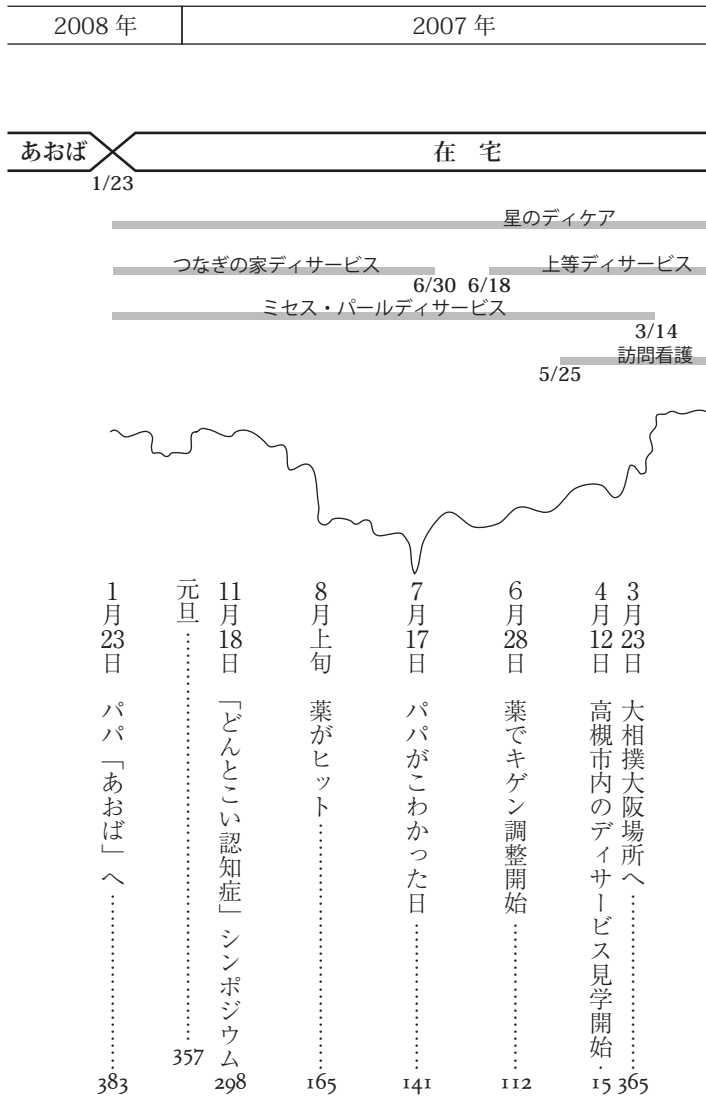
第四章

『弓場律子さんの両親介護日記の発刊に寄せて』
あとがき
『小山のおうち』へ行ってきました！

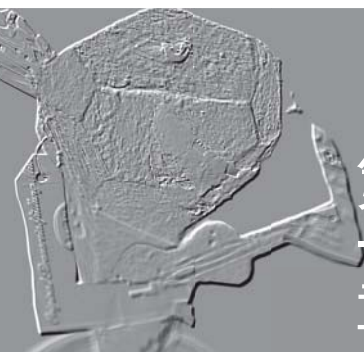
397

398

393



下巻 上巻



第一章

2005年

12月3日（土）

午前中はママと『しもだ上田辺病院』へ、昨日おけいさんに貰った車で出発。出かける前に康史から電話あり大学合格とのこと。ママ大喜び。

病院内のリハビリ室でST（言語聴覚士）と失語症（ママの失語はウェルニッケ失語といい、話し方は流暢で一見軽症そうに思われがちだが、実は重症な部類に属する失語）のリハビリを行う。ママの障害はその他に注意障害、右半側空間無視、失行、などの高次脳機能障害がある。

今日は調子が悪い様で納得がいかがぬご様子のママ。だから朝「今日はずる休みしよっか？」と言ったのに。実は私が二日酔いなのだ。昼から姉さんに来てもらい私は休日、プチ家出をする。

ママと姉さんはショートステイ先予定の『おいけの郷』に見学へ、ママはどうらや他人事だと思っていた様で、最初は「きれいなえ、よかなあ」を連発していたのだが、自分が利用すると分かったとたん顔をしかめ「私は嫌やわあ」だったとか。

21時30分、今から帰るメールを姉さんに送る。返信に「たこ焼き買ってきて」とあったので寒い中、15分待つて買ったとたんに姉さんから電話「今どこ？そんな待つんやったらいらなかったのに」むかつき！ 帰宅しムツとしながらたこ焼きを渡す。

今日のママの様子を聞き、私「パパんとこ行つた？」姉さん「行けへんかってん」私「ふくん、テレビでガンバの試合見る時間はあったのになあ。パパんとこ1ヶ月は顔出してないわなあ。まあ行けなかってんやったらしゃあないわなあ」姉さん「いやらしい言い方やなあ」と帰っていった。

寝る前にママの様子を見に行くと、お茶は入っていないしエアコンはオフ。バカヤローメールを姉さんに送る。

拝啓おけいさん、私嘘をついてました。最近よく寝る前に鼻が詰まり唾を飲込むのが困難になります。つまり少々感情が昂まります。

12月4日（日）

いつもは7時前には起きているママが7時半になっても起きない。まあ日曜だしいいか。

8時、静かに雨戸を開けたのだが、ママが起きた。午前中2人で関西スーパー（略して関スパ）へ車で買い物に出かける。私「ママ、車は良いねえ、特に雨の日は」と言いながら。

昼から、私「ドライブでもどう？」ママ「行こかあゝ」2人で「よかなあゝ」と言いながら長岡天神へ。手の届かない紅葉の枝を折ろうとするママ。15分ほど散歩を楽しんだ時、ママが紅葉している低い枝を発見した。ボキッ！ わぁ 小雨が降っていて人が少なくて助かった。枝を離さないママと、急いで車に戻り逃げ帰る。

夕方八木さん（ご近所でママの親友）が筑前煮を持って来てくれた。感謝。東元さん（私の知人）が送ってくれたアルツハイマーのビデオを2人で見ると。私「ママも私も良い友達いっぱいやねえゝ」ママ「そうようゝ」私「ところで昨日おねえちゃんと見に行ったところは怎么样った？」ママ「まあねえ」私「試しに1回行ってみる？新しい友達出来たらいいねえ」ママ「そやそや」おっ！行ってくれるかも。

12月5日（月）

くそ寒い日に限って夜中にストーブの灯油切れ。朝まで保つ分だけ入れたつもりだったが、5時半にまた切れた。ウァァ！朝、ケアマネの小野さんに電話、2泊3日の『ショートステイおいけの郷』を予約する。日程は小野さんにお任せとする。

今日は『星のデイケア』（ママ利用中）の家族交流会。利用者の家族が集まり日頃の悩みや体験談を話しあう場。意外なことに、『星の』の恵まれた環境を実感している家族が少ないように感じた。ママの場合、機嫌良く行ってくれるデイケア又はデイサービスはここ以外に考えられない。『星の』は一般の介護保険でのデイケアではなく、医療保険での重度認知症対応のデイケア。スタッフの数は介護保険施設より多く、質も内容も高い。よくぞ『星の』を紹介してくれた、と小野さんに感謝。よくぞ入れてくれたはった、と星野先生に感謝。姉さんと2人して、感謝感激雨あられ。ママってホンマ、ついてるなあとママの強運に感心したものだ。

その他交流会の感想としては、事務長の話はワカラナイ。介護者仲が睡眠障害になる話では、ママもよく眠れないと言ってたなあゝ、やっぱり原因はパパの介護ストレスやったんやなあゝと思った。